

## 肱川から初記録の魚類二種

清水 孝昭

愛媛県で最も規模の大きい一級河川肱川（幹川流路長 103km, 流域面積 1,210km<sup>2</sup>）からは、これまで 94 種の魚類が記録されている（リバーフロント整備センター編, 2000；辻, 2002；清水・葉師寺, 2004）。本河川は、県下では古くから魚類相がよく調べられている反面（例えば伊藤, 1959；伊藤・桑田, 1962；水野, 1973；伊藤・水野, 1977；愛媛県, 1979；環境庁自然保護局, 1987；水野, 1988；河辺川ダム環境影響等調査委員会, 1988；辻, 1991, 1993）、標本に基づく報告は近年なされ始めたばかりである（辻, 1995；清水, 1998；高橋ほか, 2000）。そのため、物証がなく、一般的な分布パターンなどから記録に疑問が残されたままの魚種も存在する（例えばスナヤツメ, アユカケ：清水, 2003a, b）。筆者は 2003 年に、肱川よりサツキマス *Oncorhynchus masou ishikawae*（サケ目サケ科）とクロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus*（スズキ目クロホシマンジュウダ

イ科）各 1 尾の標本を得た。これらはともに本河川より未報告であるため、得られた標本に基づきここに報告する。

### 材料と方法

サツキマスは 2003 年 9 月 7 日の午後 9 時ごろ、肱川中流域で投げ網によって採集され、冷蔵保存された。クロホシマンジュウダイは同年 8 月 30 日の午後 8 時ごろ、肱川下流域でたたき網漁法によって採集され、冷凍保存された。これらはその後、愛媛県中予水産試験場に搬入された。前者は直ちに、後者は解凍後に 10%ホルマリン溶液で固定し、体各部の測定を行った後、ともに徳島県立博物館魚類標本（TKPM-P）として登録・保管した。標本に対する記述は標本番号、体長、採集年月日、採集地点および括弧内に環境庁標準メッシュコード（環境庁, 1997）の順である。

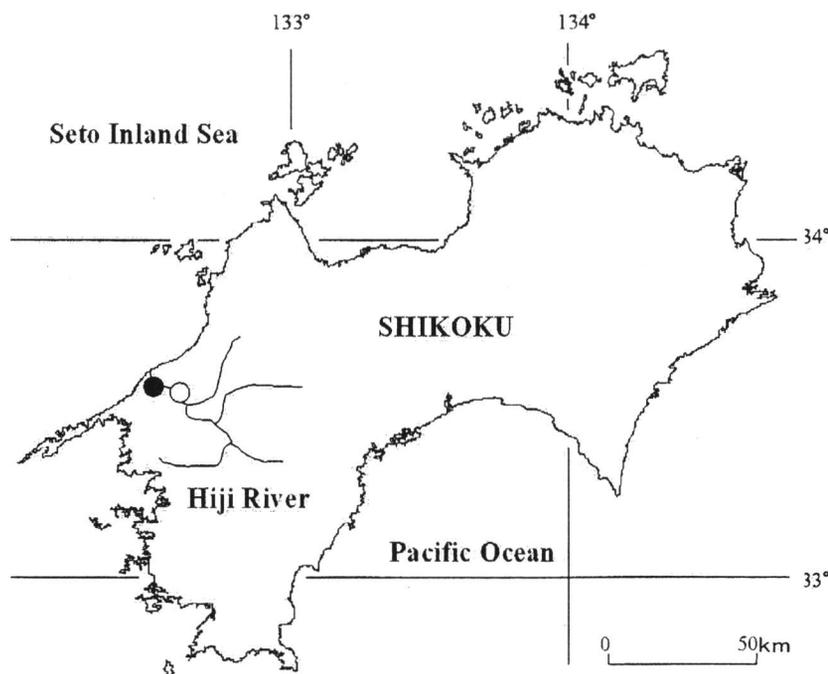


図 1. 採集地点（○：サツキマス，●：クロホシマンジュウダイ）

## 標本の記載

SALMONIFORMES サケ目

Salmonidae サケ科

*Oncorhynchus masou ishikawae* Jordan and McGregor サツキマス (図2)

TKPM-P 17435, 318mm SL, 2003年9月7日, 愛媛県大洲市菅田町譚葉 肱川中流域 (5032-1580).

全長 357mm, 体長 89.1% (全長に対する百分率, 以下同様), 体高 20.7%, 背鰭前方長 44.8%, 肛門前方長 64.4%, 尾柄高 7.8%, 尾柄長 14.0%, 第一背鰭長 11.5%, 第一背鰭基底長 11.3%, 胸鰭長 12.4%, 眼窩径 13.6% (頭長に対する百分率, 以下同様), 両眼間隔 31.4%, 吻長 32.7%. 背鰭 13 軟条, 臀鰭 13 軟条, 鰓耙数 19, 鰓条骨数 12.

体はやや側扁し伸長する。鋤骨・口蓋骨の歯帯は小字型。体背部に黒点が散在するが, 頭部にはなく尾鰭基部にわずかに認められる。生時, 頭部背側, 体背部および尾鰭基部は暗緑色で体側から腹部は銀白色。また, 体側には側線に沿って不連続な幅広い桃色帯が走り, その縁辺部には小朱点が散らばる。パーマークはなく, 鱗は剥げにくい。個体は雌で, 上顎, 下顎ともに湾曲しておらず, 体内には発達した卵巣が認められた。

採集時期からみて, 本個体は春先に河川へ遡上した後, 繁殖のため産卵場へ移動していたものと思われる。本種はアマゴの降海型であり, 対岸の広島県では太田川で毎年の遡上および繁殖が確認されている (内藤, 1997)。本県では丹原町の中山川および西条市の加茂川に遡上しているほか, 伊予市沿岸で採集された記録があるが (清水, 2001; 高橋, 2003), それらが産卵場に回帰しているかどうかは不明である。今回の個体が採集された地点より上流の肱川本流には鹿野川ダムがあり, これより上流への遡上は不可能であるため, 周辺の支流を産卵場に利用するのも知れない。また, 陸封型であるアマゴは渓流釣りの対象魚として県下各地に放流されていることから, 肱川で採集されたサツキマスが在来の個体群由来かどうかは不明である。愛媛県のレッドデータブックでは情報不足種に位置づけられている (高橋, 2003)。

なお, 採集年月日不明ながら, 本水系鹿野川ダム湖では本種の降湖型が1尾採集され, 徳島県立博物

館に保管されている (TKPM-P 3537)。

PERCIFORMES スズキ目

Scatophagidae クロホシマンジュウダイ科

*Scatophagus argus* (Linnaeus) クロホシマンジュウダイ (図3)

TKPM-P 17432, 231mm SL, 2003年8月30日, 愛媛県喜多郡長浜町柴 肱川下流域 (5032-2482)。

全長 275mm, 体長 84.0% (全長に対する百分率, 以下同様), 体高 52.5%, 肛門前方長 46.3%, 頭長 22.8%, 尾柄高 11.1%, 第一背鰭最長棘長 16.1%, 胸鰭最長軟条長 12.3%, 腹鰭最長軟条長 20.5%, 眼窩径 21.2% (頭長に対する百分率, 以下同様), 両眼間隔 44.8%, 吻長 31.6%. 背鰭 11 棘 16 軟条, 胸鰭 16 軟条, 腹鰭 1 棘 5 軟条, 臀鰭 4 棘 13 軟条。

体は著しく側扁し, 口は小さく端位。側線は体側中央部にあり, 完全で上方へ湾曲する。左右の鰓膜は峡部で互いに癒合し, 背鰭基部に前方へ向かう1つの小さな棘がある。体色は暗銀色で, 体側には黒斑が散在する。

本科魚類は東アフリカ, インド, 東南アジア, 中国, 台湾, フィリピン, インド-西太平洋およびソサイエティ諸島の河川下流域から沿岸海域に分布する (Berra, 2001)。本科には2属4種が含まれ, 本邦には本種のみが分布する。クロホシマンジュウダイ科の魚種はチョウチンウオ科と同様に, トリクチス幼生期を経るが, それらとは臀鰭棘数や尾鰭分岐軟条数, 背鰭前向棘の有無など形態的に大きく異なり, スズキ目の中で前者はニザダイ亜目 *Acanthuroidei*, 後者はスズキ目 *Percoidei* に置かれている (中坊編, 2000)。

本種はインド-太平洋域に分布し, 成魚はおもに沖縄島以南に多い (木下, 2002)。本種の仔稚魚は黒潮によって運ばれ, しばしば九州以北の河川や沿岸域で記録されるが, 仔稚魚を含めてこれまで瀬戸内海からの報告はない。四国における本種の記録として, 愛媛県では宇和海に面した宇和島市来村川で全長 18mm と 19mm の2個体の稚魚 (水野ほか, 1999), 同じ宇和海沿岸の高知県柏島周辺海域から全長 31cm の成魚 (平田ほか, 1996), 徳島県の太平洋側から 12mm の稚魚 (高橋ほか, 1997) が報告されているほか, 高知県の太平洋側では比較的安定した個体群が存在

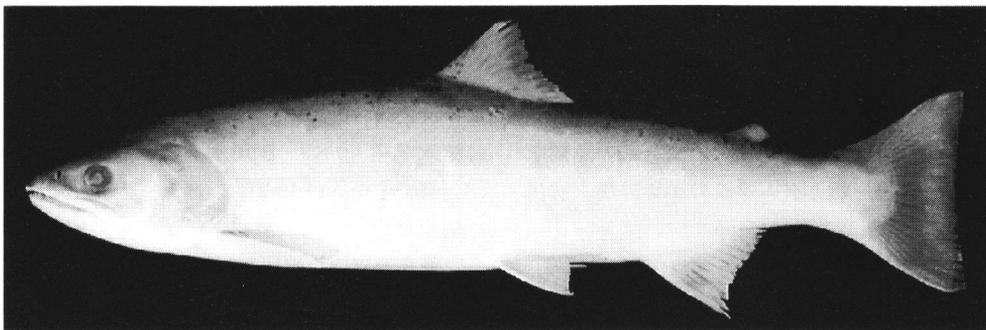


図2. サツキマス *Oncorhynchus masou ishikawae* (TKPM-P 17435, 318mm SL)

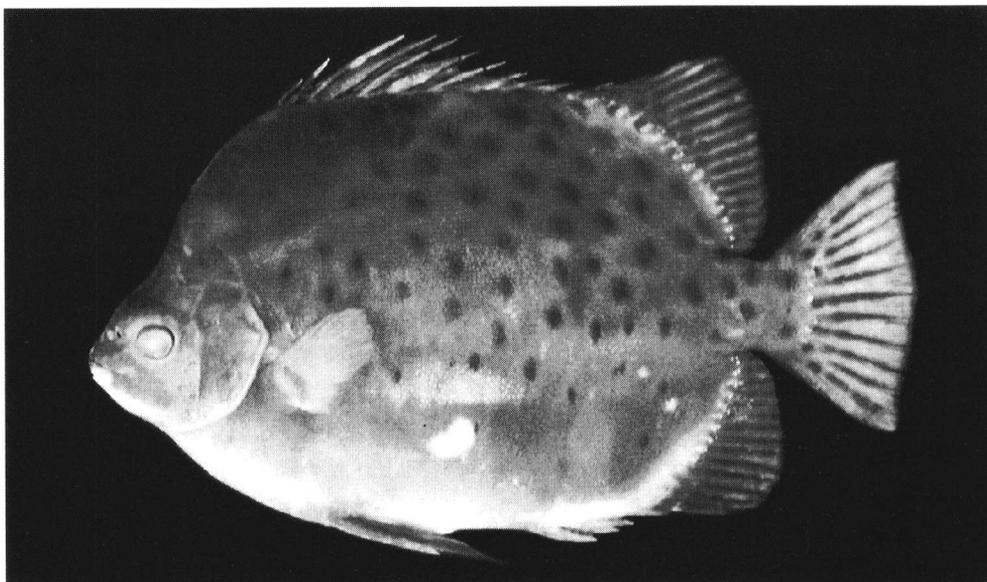


図3. クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus* (TKPM-P 17432, 231mm SL)

するようである(落合ほか, 1984; 山崎, 1993; 水野, 2003)。愛媛県のレッドデータブックで情報不足種, 高知県では準絶滅危惧種に位置づけられている(高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会編, 2002; 水野, 2003)。本種はまた, スキャットファークスの愛称で, 観賞魚としての認知度が高いことでも知られる(木下, 2002)。

### 謝 辞

稿の校閲を賜り, 標本の登録・保管にご尽力いただいた徳島県立博物館の佐藤陽一氏に感謝の意を表す。また, サツキマスの標本を寄贈していただいた城戸 司氏と採集者の矢野朋考氏, クロホシマン

ジュウダイの標本を寄贈していただいた肱川漁業協同組合の楠崎隆教組合長と採集者の上満 武氏ほか3名の方々に感謝する。

### 引用文献

- Berra, T.M. 2001. Freshwater fish distribution. Academic Press, California. xxxviii+604pp.
- 愛媛県. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査・河川調査報告書. 愛媛県. 77pp.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相一行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物センター研究報告, 16:1-177.

- 伊藤猛夫. 1959. 肱川水系とその魚類. 愛媛の自然, 1 (7):6-9.
- 伊藤猛夫・桑田一男. 1962. 肱川水系の動物. 愛媛大学文学部生物学教室, 松山. 14pp.
- 伊藤猛夫・水野信彦. 1977. 肱川上流水系の魚類を中心とした河川形態とダム建設の影響評価. 肱川上流水系水産資源調査会. 151pp.
- 環境庁. 1997. 都道府県別メッシュマップ 38 愛媛県. 財団法人自然環境研究センター, 東京. 112+VIII pp.
- 環境庁自然保護局. 1987. 第3回自然環境保全基礎調査・河川調査報告書 四国版. 環境庁. 56+22+63+88+37pp.
- 河辺川ダム環境影響等調査委員会. 1988. 河辺川ダム環境影響等調査報告書. 肱川町. 320pp.
- 木下 泉. 2002. クロホシマンジュウダイ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監), 山溪カラー名鑑 改訂版日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京. 533pp.
- 高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会編. 2002. 高知県レッドデータブック[動物編]高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知. 470pp.
- 水野晃秀. 2003. クロホシマンジュウダイ. 愛媛県貴重野生動植物検討委員会編, 愛媛県レッドデータブック-愛媛県の絶滅の恐れのある野生生物. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山. p.110.
- 水野晃秀・清水孝昭・山本孝雄・戸田隆太. 1999. 愛媛県来村川の魚類相. 徳島県立博物館研究報告, (9):1-38.
- 水野信彦. 1973. 愛媛県の淡水魚-4- ガラビキで採れる魚. 愛媛の自然, 15 (4):1-3.
- 水野信彦. 1988. 肱川の魚. 横山昭市編著, 肱川人と暮らし. 財団法人愛媛県文化振興会財団. 13-27.
- 内藤順一. 1997. 太田川水系のサツキマス. 比婆科学, (182):11-36+10pls.
- 中坊徹次編. 2000. 日本産魚類検索-全種の同定-第二版. 東海大学出版会, 東京. lxi+1752pp.
- 落合 明・大野正夫・古屋八重子・谷口順彦. 1984. 高知県の淡水生物. 高知県内水面漁業協同組合連合会, 高知. 158pp.
- リバーフロント整備センター編. 2000. 平成10年度河川水辺の国勢調査年鑑-魚介類調査, 底生動物調査編. 山海堂, 東京. 70pp.+ CD-ROM.
- 清水孝昭. 1998. 肱川水系より得られたワカサギ. 南予生物, 10:19-21.
- 清水孝昭. 2001. 愛媛県伊予市沿岸域の魚類目録. 徳島県立博物館研究報告, (11):17-99.
- 清水孝昭. 2003a. スナヤツメ. 愛媛県貴重野生動植物検討委員会編, 愛媛県レッドデータブック-愛媛県の絶滅の恐れのある野生生物. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山. p.102.
- 清水孝昭. 2003b. アユカケ. 愛媛県貴重野生動植物検討委員会編, 愛媛県レッドデータブック-愛媛県の絶滅の恐れのある野生生物. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山. p.109.
- 高橋弘明. 2003. サツキマス (降海型アマゴ). 愛媛県貴重野生動植物検討委員会編, 愛媛県レッドデータブック-愛媛県の絶滅の恐れのある野生生物. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山. p.109.
- 高橋弘明・橋本健一・東 健作・平賀洋之. 2000. 肱川で採集されたカライワシ *Elops hawaiiensis* Regan. 南予生物, 11:42-43.
- 高橋弘明・佐藤陽一・洲澤 譲. 1997. 椿泊湾流入河川の魚類相. 徳島県立博物館研究報告, (7):39-66.
- 辻 幸一. 1991. 肱川水系の魚類 (1). 南予生物, 6 (1・2):6-9.
- 辻 幸一. 1993. 肱川水系の魚類 (2). 南予生物, 7 (1・2):11-15.
- 辻 幸一. 1995. 肱川水系の魚類 (3). 南予生物, 8 (1・2):1-3.
- 辻 幸一. 2002. 肱川の魚類. 愛媛県立大洲高等学校研究紀要, 15:29-37.
- 山崎 武. 1993. 四万十川漁師ものがたり. 同時代社, 東京. 238pp.
- (しみず たかあき 〒799-3125 伊予市森121-3 愛媛県中予水産試験場 E-mail:simizu-t@bea.hi-ho.ne.jp)